

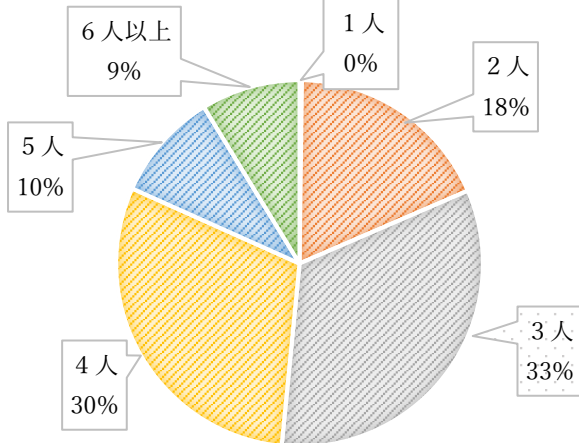
【資料】R6 年度特別展アンケート結果（回答者数 483 人）

※アンケート実施日 8/1～8/11（8/5〔休館日〕 除く）

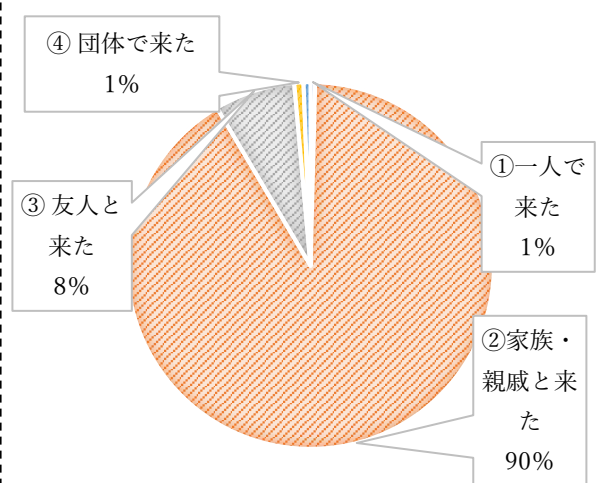
※アンケート実施者は、上記期間中に特別展に来場した方に出口付近でランダムに声がけし、協力の承諾を得られた方とした。

【来場者について】

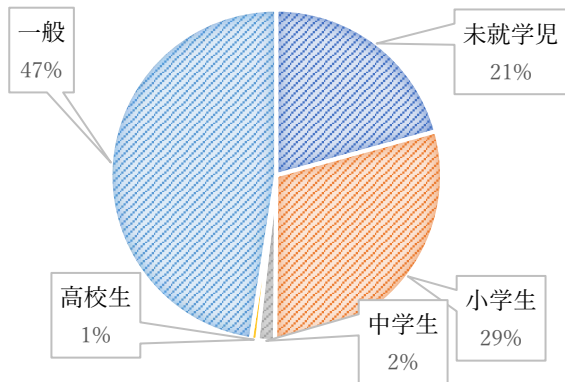
何人でお越しになりましたか？



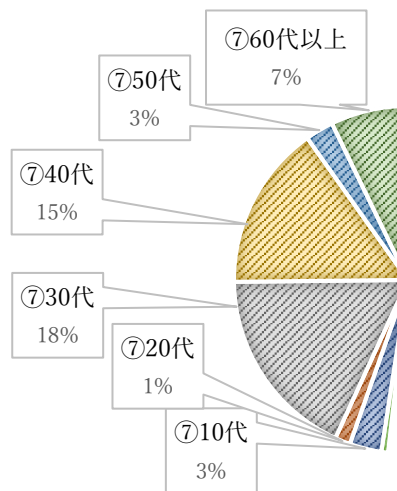
どなたといらっしゃいましたか？



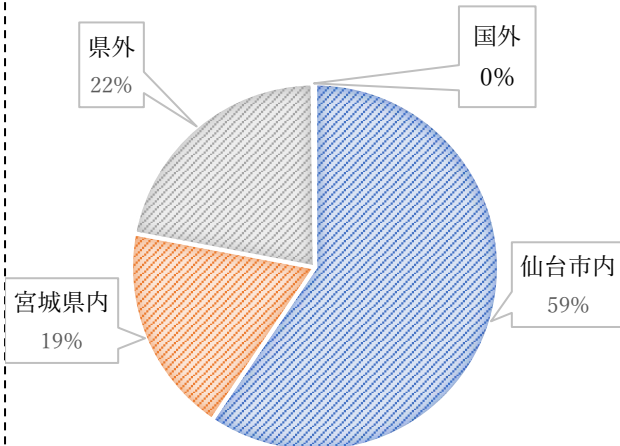
お越しになった方、全員の年代と人数を教えてください。



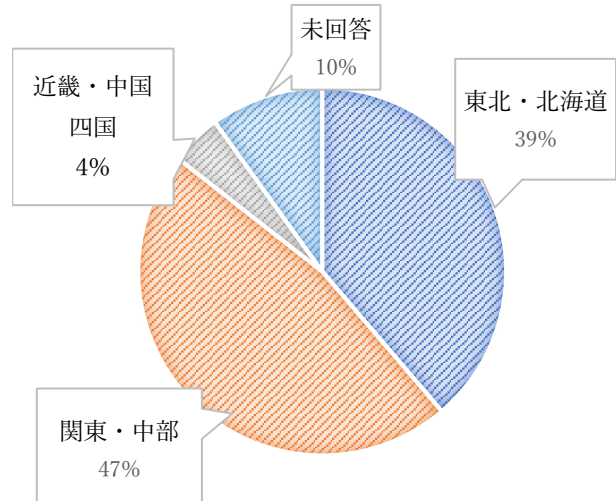
一般47%の内訳



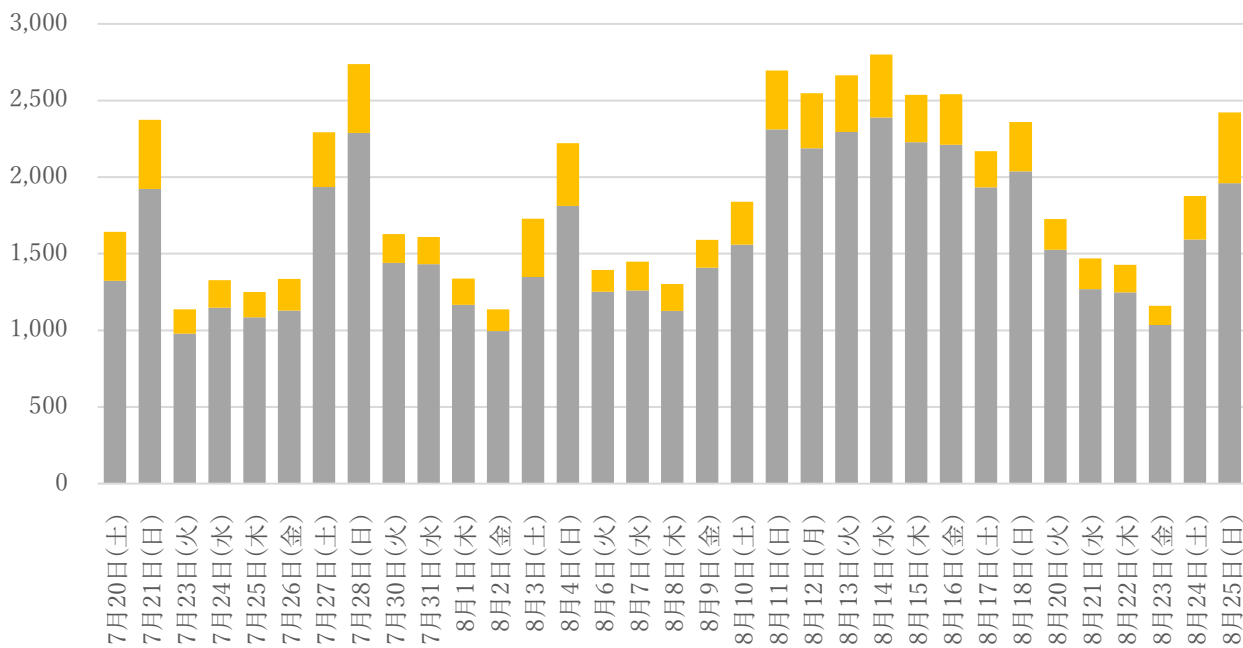
どちらからいらっしゃいましたか？



県外来場者の内訳



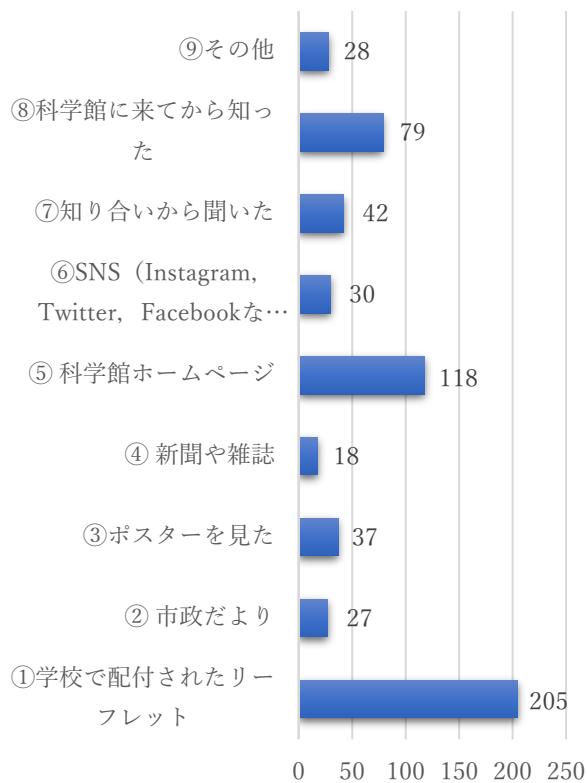
R6年度 特別展 日別入館者数



■ 未就学児 ■ 小学生以上入館者

【広報等について】

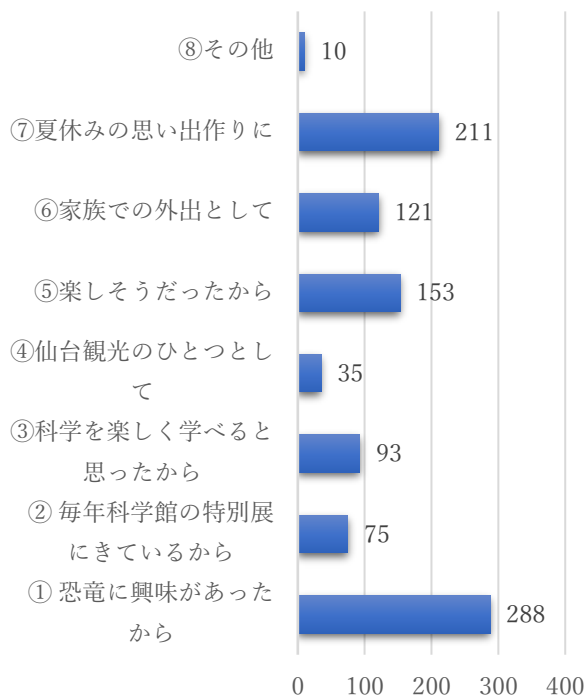
●特別展「恐竜最前線 2024～奇跡の恐竜カムイサウルス～」をどのようにお知りになりましたか。（複数回答可）



【その他】

- ・毎年やっているから
- ・TVのニュース
- ・科学館で配布していたフライヤー
- ・googleの紹介
- ・前を通過して看板を見ていた

●特別展「恐竜最前線 2024～奇跡の恐竜カムイサウルス～」にお越しになった理由を教えてください。（複数回答可）



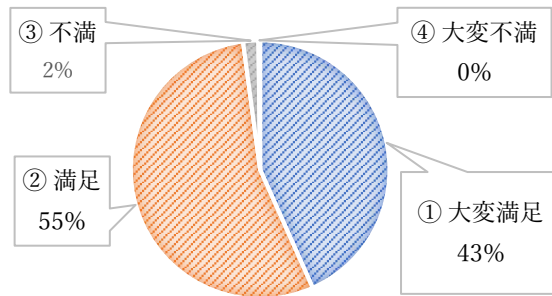
【その他】

- ・絵日記の宿題のため
- ・前を通過して気になっていた
- ・どこでもパスポートが使えるから

【展示内容等について】

- 特別展「恐竜最前線 2024～奇跡の恐竜カムイサウルス～」の感想をお聞かせください。

特別展の感想をお聞かせください



【理由】

- ・日本の恐竜は親近感がわき、楽しめた。
- ・カムイサウルスに会えたことで満足した。
- ・思った以上の迫力で、大満足した。
- ・カムイサウルスのビデオやパネル説明がわかりやすかった。
- ・字を読めない子どもには、ジオラマがわかりやすくよかった。
- ・歯や皮膚の化石など触れる展示がよい。
- ・名前を聞いたことのない恐竜や、羽毛の生えた恐竜など、発見しながら楽しく見学できた。
- ・このような大規模な展示はなかなか見ることができない。

【課題】

- ・展示の数が少ない。実物の骨格が見たい。
- ・体験できる参加型の展示があるとよい。
- ・前回展示していたものがあってがっかり。
- ・未就学児には見えにくい高さの物があった。
- ・プロジェクターの文字が読み取りにくかった。

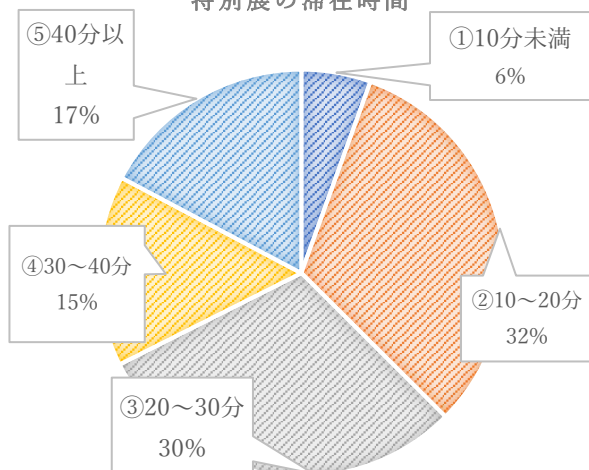
- 展示内容で興味が持てたものを教えてください。（複数回答可）

展示内容で興味が持てたものを教えてください。（複数回答可）



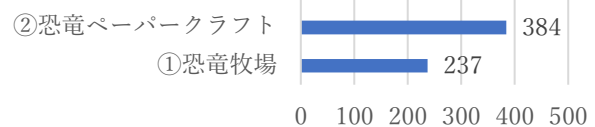
- 今回の特別展をご覧になった時間（入場から退場までのお時間）はどのくらいでしたか。

特別展の滞在時間



- 特別展示室外の体験、連携展示で興味が持てたものを教えてください。（複数回答可）

回答者 449 人中



- ・どちらも小さい子が楽しめる企画でよかった。
- ・予約制ではないところがよかった。
- ・子どもと大人と一緒に楽しめた。
- ・クラフトはほどよい難しさと達成感があった。
- ・かわいい写真が撮れました。
- ・かぶった子とすれ違い、入る前から楽しみ。

【調査結果の分析】

●来館者について

主な来館者は、小学生や未就学児を含む家族連れであった。昨年度と比較すると、未就学児の割合が7%、30代一般来館者の割合が3%増加した。全体の約80%が県内からの来館で、仙台市内からの来館者が約60%を占めた。県外からの来館者は昨年度より4%増加し、関東・中部地方からの来館者が最も多く、全体の47%であった。

今年度は、カムイサウルスという貴重な標本を展示のメインに据えたことで、多くの恐竜ファンが来館した。これにより、県外からの来館者や大人の来館者が増加したと考えられる。さらに、お盆の時期には帰省中に来館した方も多く、全国各地から来館者が集まった。また、映像展示や体験型の展示・イベントを増やしたことが、未就学児の割合増加につながったと推測される。

特別展期間中、来館者は1,100人を下回ることなく、すべての日曜日とお盆期間中には、連日2,000人を超えた。最終的な来館者総数は61,737人となり、これは2012年以降で最多となった。

●広報について

今年度も県内の子どもたちにリーフレットを配布した。対象は仙台市内小中学校・高等学校と保育園・幼稚園および児童館で、仙台市外では県内の全小中学校に配布した。また、マスメディアへの後援依頼、投げ込み、報道への前日公開を行った。館内では、4月からエントランスホールにて垂れ幕の設置やPVの放映、フライヤーの配布を3か月間実施した。

回答者の43%が、学校で配布されたリーフレットを通じて特別展を知ったと回答しており、リーフレット配布の広報効果が非常に大きいことがわかった。また、今年度は科学館HPやSNS、知り合いからの紹介で特別展を知った来館者も大幅に増加した。これは、科学館や仙台市のウェブサイトでの情報掲載に加え、来館者のSNSによる口コミによって情報が広がったためと考えられる。多くのフォトスポットを設置したことも、この効果を後押しした。なお、現在は科学館からSNSでの情報発信は行っていないが、今後の情報発信については検討していく必要を感じる結果となった。

●展示内容について

今回の特別展では、東北初公開となるカムイサウルスの標本展示とパネル展示がメインとなり、その迫力を多くの来館者に感じてもらえた。また、解説が多いテーマでありながら、幅広い年代の来館者に満足してもらうために、解説はしっかり残しつつも体験型の展示を充実させた。ハンズオン展示やフォトスポット、着ぐるみ体験、ペーパークラフトなどの体験について、大人も子供も一緒に楽しむことができたという、好意的な意見が多く寄せられた。

さらに、恐竜学者の小林教授や吉田学芸員による講演会も好評で、抽選による人数制限など実施形態の課題は残るが、来館者の興味・関心を大いに高めた。アンケート結果でも高い満足度が示されており、今回の特別展は企画の趣旨・意図に合致したものと分析される。